



地域と学校との連携 竜洋西小生の町歩き

令和2年12月16日、磐田市立竜洋西小学校6年生の校外学習として掛塚の町歩きが行われ、私たち「みんなと倶楽部 掛塚」もガイド役として一役買うことになり、掛塚の町を児童たちと一緒に歩きました。

校外学習のテーマは「掛塚歴史探訪!!じまん発見!」。掛塚の歴史を探りながらの町歩きは、クラスごとに3コースに分散。全員マスク着用で、「みんなと倶楽部 掛塚」で作ったポケットガイド「掛塚歴史さんぽ」を開きながらのウォーキング。

元々は造り酒屋もしていた「つるや酒店」は、今も続く酒類販売店。明治17年(1884)築とされる国登録有形文化財の店舗兼住宅です。掛塚で造り酒屋を営むことができたのは、掛塚には酒造りに良い水が湧き、天竜川の上流から原料となる米が届けられたから。出来上がった酒は、船を使って運び出すことができる湊町は、流通の上でも好立地でした。

掛塚の繁栄を支えたのは、天竜川をいかで下った北遠の木材、東西のほぼ真ん中に位置する物流の拠点としての掛塚と地域内の東西南北に張り巡らされた水路網。水路に浮かべた船は、荷車よりもはるかに大量の物資を運ぶことができたのです。

旧廻船問屋・津倉家住宅を見学した竜洋西小6年生たちは、西光寺南の旧「掛塚学校」跡へ。明治6年(1873)に開校し、その後、川袋学校などと合併し、大正4年(1915)に現在地に移転し、昭和36年(1961)に校名を竜洋西小学校へと変更し現在に至っています。

竜洋西小の校章に残された錨は、掛塚を象徴するデザイン。天竜川の「竜」、太平洋の「洋」から名付けられた「竜洋」の町名も消え、今回のテーマ「掛塚歴史探訪!!じまん発見!」の校外学習はますます大切になって来ました。

スタート地点の貴船神社に戻った竜洋西小6年生たちには社殿の裏側に周っていただき、かつてここに港があったことを伝えようと大正13年(1924)9月に建てられた「掛塚港廻船之碑」について学習。「掛塚港廻船之碑」から学ぶことは、次の世代に郷土の歴史を正しく伝えて行くのが、先の

竜洋西小学校先生たちによる旧津倉家見学会

令和3年5月21日、磐田市立竜洋西小学校の先生方が旧津倉家住宅を見学に訪れました。

参加した先生方は地元、掛塚や旧竜洋町出身者ばかりではありません。そのため、児童に郷土の歴史を教えるにしても、資料を読んで知るしかありません。そこで大切なのは、やはり「地域と学校との連携」。「私たち「みんなと倶楽部 掛塚」がその役割を担うことになったのです。」

掛塚が天竜川を流されて来た木材を船で運び出す港町として栄えたこと。良材が集まる場所には製材業が栄え、大工や建具屋などの職人が育ち、祭り屋台を造った腕利きの宮大工たちも排出された歴史について学ぶには、旧津倉家住宅は絶好の教材です。

今回は雨天のため「町あるき」は中止になりましたが、次の機会にはぜひとも楽しい「町あるき」をしていただき、「遠州の小江戸」掛塚の魅力に深く触れていただきたいと思っています。

記事 斎藤朋之

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第21号

P1 地域と学校の連携 竜洋西小生の町歩き
P2-3 竜洋西小生の学習報告 「未来の竜洋に提案します」
P4 ちよつとくいけ? 鈴木きぬゑさん(横町)



ちよつとくいけ?

温故知新! 掛塚を知る「にーさ・ねーさ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組(のりこ&さゆり)がインタビュー。今回は、横町の鈴木きぬゑさんにお話を聞いてきました。



鈴木きぬゑさん 89歳(横町)

電話交換手の仕事について教えてください。

(太郎さん(10番)が花子さん(87番)に電話をかける場合)

太郎さんが郵便局に電話をかけると電話交換機の10番の表示器がパカッと開くだよ。応答プラグを10番に挿して太郎さんと繋がったら「何番へ?」って相手の番号を聞くじゃん。太郎さんが「87番」って言ったら今度は呼出プラグを87番に挿して花子さんを呼び出してやると太郎さんと花子さんが話ができるようになるだよ。私が辞める頃には市内は100件くらいあってね、番号じゃなくて屋号で言う人もあるもんで、それを覚えるのは大変だったよ。(笑)

市外の時は相手の局と番号を聞いたらそれを紙に書いて順番を待たせよ。順番がきたら繋いでもらうんだけど市外は浜松と磐田しか線が無かったもんで、その他の所はそこからまた中継してもらってもんで時間がかかったね。



↑お仕事中のきぬゑさん



↑左がきぬゑさん

慰安会の日の写真。和服姿のきぬゑさんもきれいですね。

慰安会は方々の局の人が磐田に集まって、私も踊ったり歌ったりしただよ。まだ自動車がなかったもんで磐田までは自転車の後ろに横座りだね、着物を着て頭を結った姿で乗せてもらってただよ。よく行ったと思うよ、今じゃ考えられんね。(笑)



↑一番右がきぬゑさん

戦中戦後の厳しい時代のお話も伺いました。

あの頃は始末、始末で親の着物をもらって洋服に仕立てたり、手が出ないくらい長い袖の服を、七分になるまで着ただよ。塩が無い時もあって、駒場(こまば)まで海水を汲みに行っただけど、大八車で運ぶもんであんまりたくさん汲むと途中で零れちゃうんだよ。その塩水で味噌汁を作ったりご飯を炊いたりして、お米も無い時は、かぼちゃやジャガイモを煮てその中に小麦の団子を落とした「すいとん」を作ってたことあるんだよ。

私はちよつとくいけの時だったもんで小学校でも高等小学校でも一度も修学旅行に行けなかったに。どちらか一方って言う人はいたけど私は両方行けなかったよ。



この手編みのお洋服!



●手編みセーター たくさんある中のほんの一部です。

今回は旧郵便局舎をお借りでき、実際に電話交換をされていた場所や各係の配置などもよく分り、当時の活気ある郵便局を思い浮かべることが出来ました。いつも津倉邸の草刈りに来てくださる横町のきぬゑさんと仲良し同級生の民枝さん。お二人が作業した後のエリアには小さな草すらも残っていません。今年90歳を迎えるとは思えないほど目も耳も足腰も「達人」なきぬゑさんは周りの方にも羨ましがられているそうです。

「取材・記事のりこ&さゆり」



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合

お問い合わせ

ご興味のある方は
下記までご連絡ください!

☎ 0538-66-4775 (名倉)

